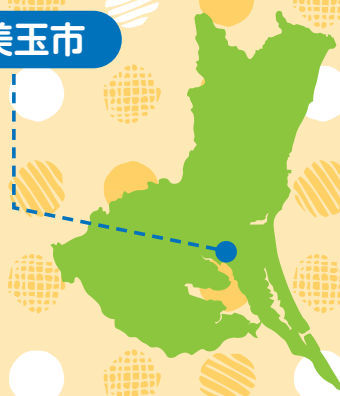




にこにこ食堂みのり



小美玉市



サロン運営団体 名	茨城保健生活協同組合小美玉支部	1回の参加人数	70～80名
開 催 日 及 び 開 催 頻 度	月1回 毎月第4日曜日 9:00～15:00	参 加 費 (1人1回あたり)	高校生まで無料 大人1食200円
開 催 拠 点	小美玉市農村女性の家	広 報 方 法	- チラシ（美野里地区4小学校、1中学校の全児童生徒に各学期初めに配付。市社協本所及び2支所） 「便り」（前月までの参加児童生徒、市社協、学校等に毎月配布） - ポスター

開催地域の様子

- 参加する子ども達に母子世帯や生活困窮と思われる人達が増えており参加者数が急増しています。
- 美野里中学校校区内の4小学校、1中学校を対象にしていますが、校区外の小川地区、玉里地区からの参加が増えている。さらに、石岡市、笠間市、茨城町からの参加もあります。
- 農家や市社協から寄贈される食料や衣類を希望者に無料配布しているが、その需要が目に見えて増加しています。

サロンの取り組む動機・サロンの将来像

- 生活困窮世帯の子どもたちが少なからず居住していることを知り『子ども食堂』『無料塾』を併せ持つ居場所、学習、食堂での援助活動ができないか、保健生協支部で具体化を検討し、市長とも懇談する中で具体化しました。
- 併せて、参加する子ども達の保護者や地域の高齢者の「語らいの場」としての『カフェ』を併設し、血圧、内臓脂肪、骨密度等を測定する無料の「健康チェック」を看護師、管理栄養士によって行うこととしました。

主な活動内容

- ①昼食の提供
 - ②学習援助（10:00～12:00）
 - ③運動、遊び（12:00～15:00）
 - ④保護者、地域高齢者対象のカフェ（10:00～12:00）
 - ⑤参加成人の健康チェック（看護師、管理栄養士が担当）
- ※現在コロナ感染拡大により、昼食の提供をテイクアウト方式とし、②～⑤は休止中。状況を見て、9月頃には再開したいと協議中。

サロンのウリ

- 事業に携わるスタッフ（調理、受付、設営、看護師、管理栄養士、学習援助者等）全員が無償ボランティアの参加
- 参加した保護者の方も手伝ってくれる
- 農家様から寄付される野菜や果物等を希望者に無料配付しているが、母子世帯等から大変喜ばれています。

サロン運営上の協力者

- 茨城保健生活協同組合本部
- 小美玉市教育委員会
- 小美玉市子ども課
- 小美玉市社会福祉協議会
- 新ひたち野農業協同組合
- 株式会社タイヨー本部

感染対策上の工夫点

- R2.2～6月は事業休止。その後は食事のテイクアウトして実施し、R3.1～3月、R3.8～9月、R4.2～5月はテイクアウトも休止しました。
- 勉強会（無料塾）と運動、遊びは休止しています。
- テイクアウト実施の際も、手指消毒、マスク等を徹底しています。

サロンをやってみてよかったこと

- コロナ禍のため現在はテイクアウト方式で実施しているが、それ以前は参加した子ども同士、または子どもと大人の交流があり、時には催し物の企画・運営に子どもたちも参加するなど、互いの成長があったと思います。



運営費の確保方法

- 茨城保健生活協同組合本部から、広報チラシ等の用紙や印刷代の助成を受けています。
- 食品のほとんどを、新ひたち野農業協同組合様とスーパータイヨー様から提供頂いています。
- 会場使用料、事務経費、通信費、調味料等は地域の有志の方の募金により賄っています。
- 食事をする大人から頂く1人1食200円を収入に繰り入れています。

助成金の活用によりパワーアップした活動

- 助成金により月々の活動にも余裕が出た。とりわけ年度末（R5.3）には日頃の「食堂」を拡大した形で「にこにご祭り」を開催することができた。これには、市社協・地元消防団・高校JRC部・飲食店・茨城保健生協本部・城南病院などのご協力を頂き、弁当配布に加えて模擬店や消防訓練、健康チェックなどを実施し、多くの来場者に喜ばれました。

これからサロン活動を始めの方へのメッセージ

- 不安がある中で始めた当「食堂」を現在まで続けてくることができたのは、スタッフ全員の努力は言うまでもないが、4つの機関・団体（市・市社協・地元のJA・スーパー）から後援を頂き、それぞれから実効性のあるお力添えを頂いたことが大きかったです。また、活動を進める中で地域から認知され農家や商店、個人の方々が様々な援助を下さるようになったことは物心両面で大いに活動の支えとなりました。





アルジュンはうす



ひたちなか市

サロン運営団体 名 称	特定非営利活動法人 生活支援ネットワークこもれび	1回の参加人数	0～30人 (イベントの有無により)
開 催 日 及 び 開 催 頻 度	平日 10時～16時	参 加 費 (1人1回あたり)	無料 またはイベント内容によって 実費負担程度(パン作り材料費など)
開 催 拠 点	ひたちなか市津田 こもれび敷地内	広 報 方 法	チラシ・HP・口コミ

開催地域の様子

- 高齢化が進んでいるが、自治会活動が盛んで地域住民同士のつながりが強い地区。(コロナ禍でここ3年は地域の行事ができず、交流の機会が減っているようです。)

サロンの取り組む動機・サロンの将来像

- NPOの活動の中で、ちょっとだけ支援が必要な人や家族が多いことに気づきました。「わけありのお母さん」や「完全な引きこもりではないが社会生活になじめない若者」など、障害児者の福祉制度外で悩みを抱える当事者やその家族の居場所が作れないか?と考えました。
- 将来の理想としては、支えてもらった人がいつか支える側になってくれるような居場所になればいいと思います。

主な活動内容

- ひきこもり、就職・生活に困難を抱えている若者、その家族の支援。
- 子育て中のお母さん、生活支援が必要な家庭の子どもの支援。
- 地域や職域で、得意なことや知識をシェアして交流する場。
- 地域のお困りごとと手伝える人のコーディネート。
(※コロナ8波で思うように広報や活動ができていません。)

サロンのウリ

- 対象や活動内容を固定せず、日替わりで試しています。障害児者の保護者会、グレーな若者の母の会、NPOスタッフによる各種相談会、草取りや軽作業でアルバイトの日、パン教室や小物づくりで交流の日、本が好きな人の日などなど。(令和4年度はなかなか予定を組むのが難しく、進みませんでした)

サロン運営上の協力者

- NPO運営のデイホームのスタッフ、利用児者の保護者。(地域の方ともこれから連携したいです。)

運営費の確保方法

- NPOの主な収益事業の中から持ち出しになっています。(このサロン活動継続のため単独で収入を得ることが課題です。)

感染対策上の工夫点

- 検温
- 消毒
- 換気

助成金の活用によりパワーアップした活動

- 障害者のご家族の方とNPOスタッフで、「パンをこねるとき、とても癒される」「実は私もパン作りにはまっています」と盛り上がり、助成金をいただいてオーブンを購入し、パン作りが好きな人の会が発足。定期的な活動にしていこう予定です。

サロンをやってみてよかったこと

- 地域の困りごとに自分たちができるとの提案や、必要な情報をお伝えすることで、いらした方が少し笑顔になって帰られたことがあり良かったです。

これからサロン活動を始めの方へのメッセージ

- 私たちの活動も始まったばかりで手探りですが、仲間とのおしゃべりでアイデアが生まれたりします。コロナ禍で失われた大切な雑談の力を取り戻していきましょう。

